

受 験 番 号	
------------	--

東京女子大学

2026 年度 社会人入学試験

現代教養学部 社会コミュニケーション学科

小論文

1/1

問題

近年、SNS 上での誹謗中傷が深刻な社会問題となっています。特に匿名性の高さや即時性が、この問題を加速させる一因となっており、多くの人々が精神的・経済的な被害を受けています。この SNS 上での誹謗中傷問題に関して、今後私たちが取りうる解決策について考察してください。

出題のねらい

本設問のねらいは、SNS 上での誹謗中傷という身近でありながら複雑な社会問題について、受験者が当事者意識をもって考察できるかを測ることにある。提示された情報を正確に読み取り、因果関係を整理しながら論理的に論述する基礎的学力、社会問題を公共的課題として捉える姿勢、そして現実的な解決策を構想する力を確認することを目的としている。とりわけ、SNS コミュニケーションに固有の「匿名性」「即時性」といった特性が、人々の心理過程および社会構造とどのように結びつき、問題を生み出しているのかを多角的に理解する力を重視する。

解答例（出題の意図）

本設問では、「匿名性」「即時性」というキーワードを手がかりに、誹謗中傷が生じやすい背景を適切に捉えられているかを確認することを意図している。匿名性は責任感の低下や脱個人化を招き、即時性は感情的で衝動的な反応を促進する。さらに、個人の発言が瞬時に不特定多数へ拡散される SNS の社会構造が、意図しない攻撃や分断を拡大させる点にも言及できると望ましい。

解決策としては、個人レベルでの投稿前の自己抑制や想像力の涵養、教育現場におけるメディア・リテラシー教育、プラットフォームや制度による衝動的な投稿を抑制する仕組みや相談・通報体制の整備など、個人および社会の複数の水準からの対応を論理的に示すことが望まれる。

解説

本設問では、誹謗中傷問題を個人のモラルに還元せず、心理的要因と社会構造の双方の幅広視点を持って理解できているかを重視する。匿名性による責任感の低下、即時性による感情優位の判断といった心理的側面に加え、拡散性や規範といった社会的側面を関連づけた解答が高く評価される。また、解決策についても理想論にとどまらず、現実的かつ持続可能な視点をもって論じているかが重要である。